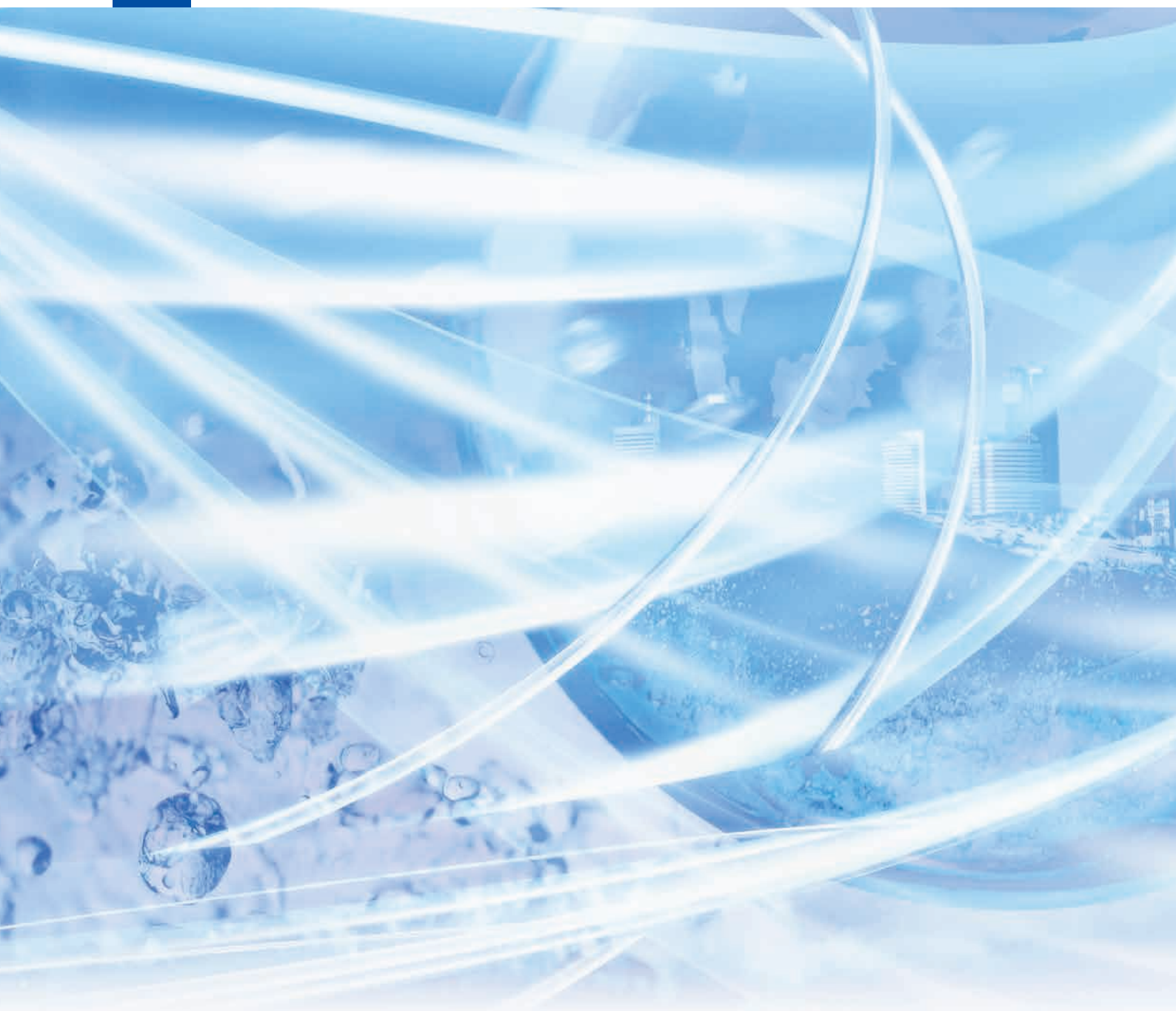




PFP®

水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管



キープ・クリーン鋼管

内面にポリエチレンをライニング。
それぞれの用途に信頼で応えるPFP®。

私たちが生活していく上に、欠かすことのできない水を身近に供給している水道用鋼管。JFEは、この大切な水を安心して使用していただくために小口径の給水用鋼管として化学的に安定で極めて衛生的な水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管を開発し、1978年よりPFP®として製造販売しております。PFP®は内面にポリエチレン粉体をライニングした、いわば信頼性を裏打ちした給水用鋼管といえます。

ポリエチレン粉体ライニング鋼管は、最近、環境リサイクル性に優れていることに加え、転造ねじ加工の適用が可能になったことで、耐震・耐久性に優れた環境に優しい配管システムの構築が可能となりました。

これらの性能は、各種の試験で実証されており、また各現場での使用実績から今後とも給水用鋼管として、より一層ご期待に添えるものと確信しております。



目次

特長	1
製造方法	2
PFPの標準仕様と品質	3
PFPの表示	5
PFPの荷姿	5
PFPへの転造ねじ適用	6
PFPの切断	8
取扱上の注意事項	8
PFPの配管施工例	9

特 長

1 衛生面でも安心して使用できます。

ライニング被膜には、最も安全性の高いポリエチレンを使用。耐水性に優れ、衛生上無害のため、安心して使用できます。

2 ピンホールはありません。

厳密な管理のもとに製造されており、ピンホールの心配はありません。

3 環境リサイクル性に優れています。

ポリエチレンと鋼管を分別せずに鉄スクラップ処理が可能です。

4 強い密着度と優れた物性を有しています。

酸洗、化成処理を行った原管に、厳重な温度管理の下で高品質のポリエチレンを融着させています。ポリエチレンは、柔軟かつ強靱で鋼面によく密着しているため、外力や衝撃による多少の変形にも剥離を生ずることなく、被膜は強い密着度を保持しています。

5 耐震、耐久性に優れた 転造ねじが適用できます。

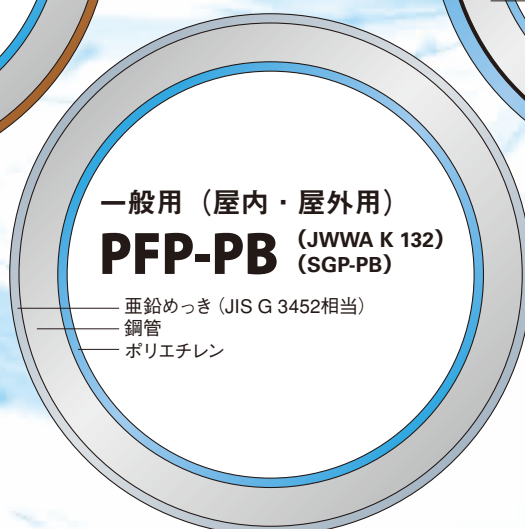
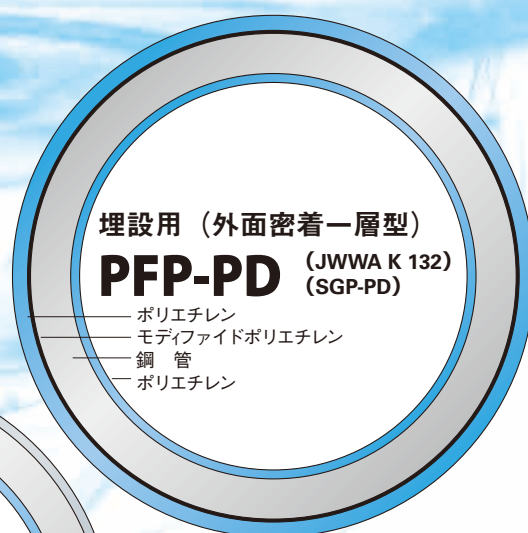
転造ねじ+PFPの組合せにより、耐震性に優れた給水配管システムの構築が可能です。

6 優れた耐寒性能を有しております。

PFPは、-30℃の環境下まで、脆化することなく使用できます。

7 設計流量が大きくとれます。

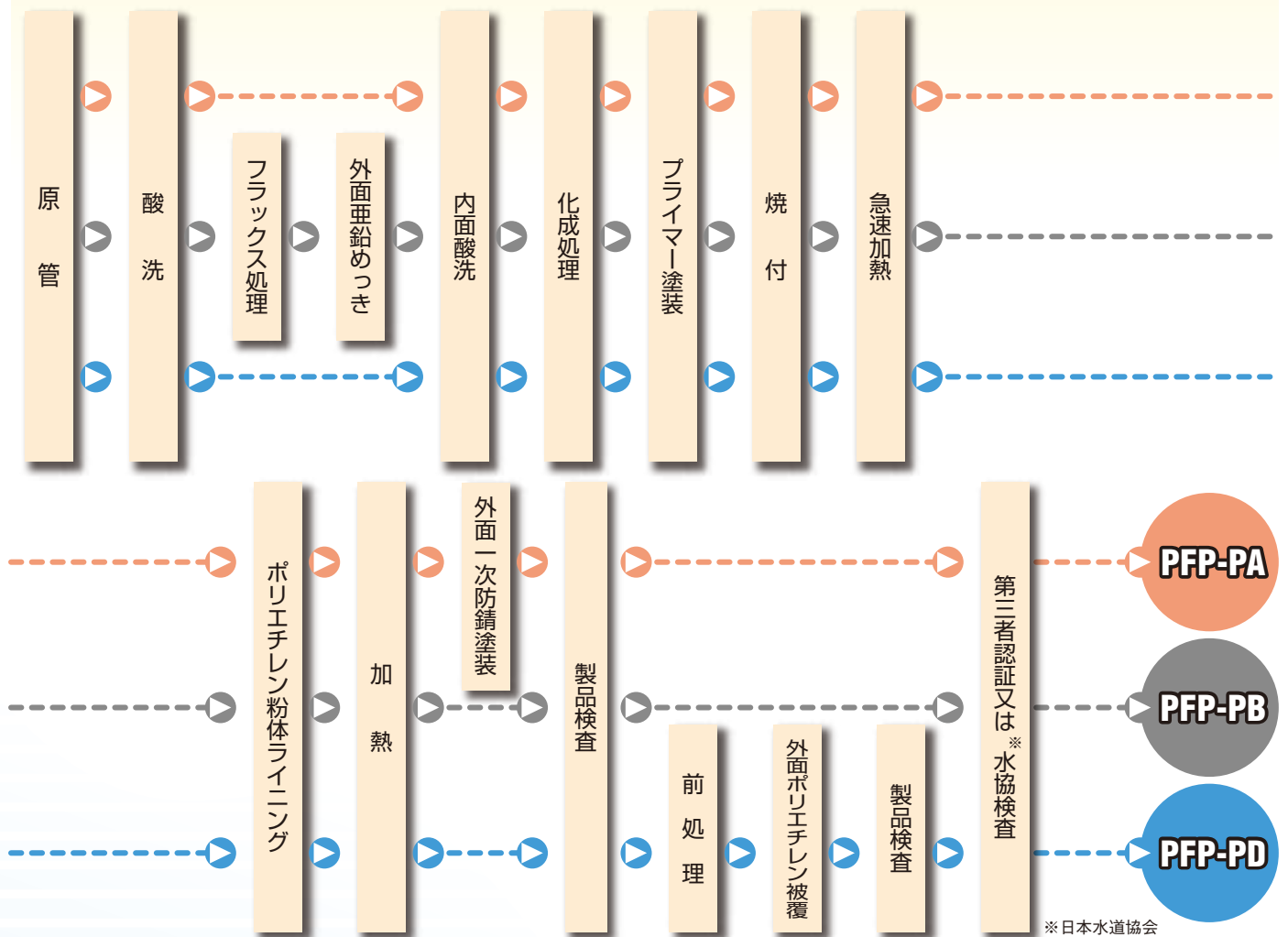
硬質塩化ビニルライニング鋼管に比較して内断面積の減少度合が少なく、同一呼び径で設計流量を大きくとることができます。



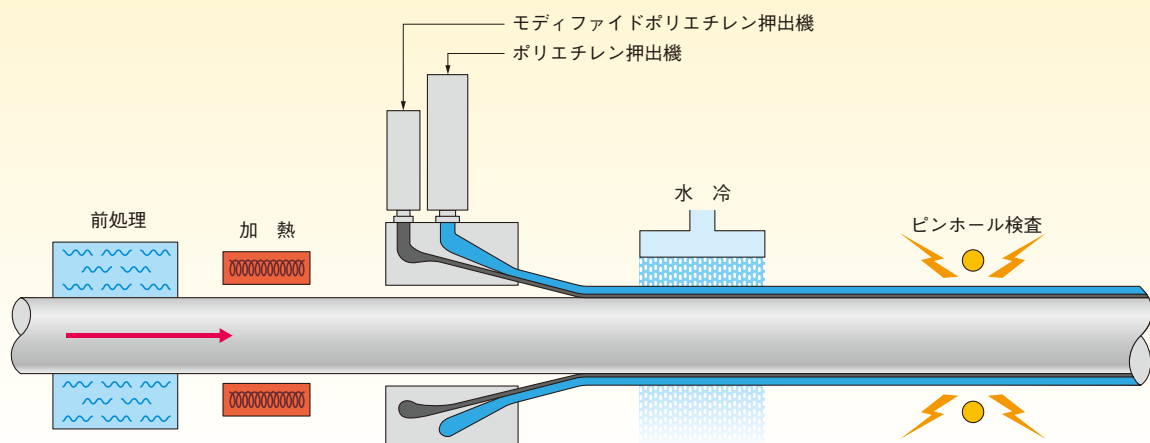
製造方法

PFPは、原管を酸洗し、次に化成処理を行い、プライマー塗装後、一定の温度に加熱し、当社が開発した粉体塗装法により、内面に密着性の良好なポリエチレンを融着させて製造します。

製造工程



■外面ポリエチレン被覆方法 (PFP-PD)



PFPの標準仕様と品質

1 製品寸法

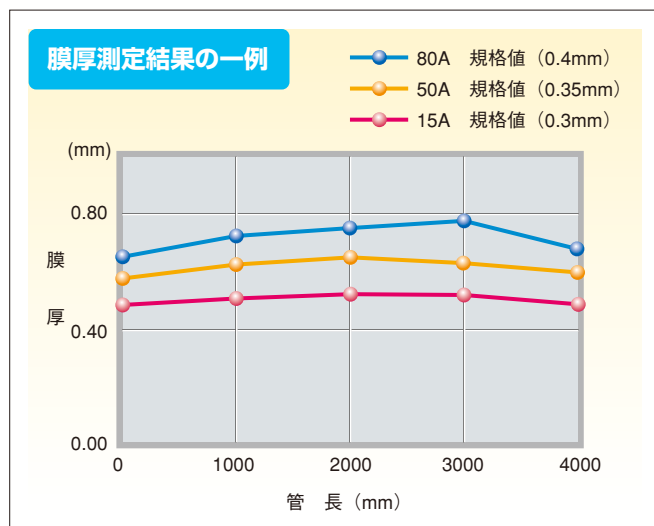
PFP-PDの外面ポリエチレン被覆はJIS G 3469のP1Hです。

呼び径 (A)	原 管		長さ (m)	内 面 ライニング厚さ (mm)	PFP-PDの 外面被覆厚さ (mm)
	外径×厚さ (mm)	単位質量 (kg/m)			
15	21.7×2.8	1.31	4.0	0.30以上	1.7以上
20	27.2×2.8	1.68			
25	34.0×3.2	2.43			
32	42.7×3.5	3.38		0.35以上	1.5以上
40	48.6×3.5	3.89			
50	60.5×3.8	5.31			
65	76.3×4.2	7.47		0.40以上	
80	89.1×4.2	8.79			
100	114.3×4.5	12.20			1.6以上

2 内面（ポリエチレン被膜）

■ ライニング膜厚

内面被膜はピンホール発生防止、耐水衝撃などを考慮した充分な厚さをもっています。



■ 内面用ポリエチレンの物性

ポリエチレンは、水に侵されず水質に悪影響を与えないものを使用しています。その物性は下表の通りです。

項 目	単 位	JWWA K 132	試験結果	試験方法
密 度	kg/m ³	920以上	930	JIS K 7112
引張破壊応力	MPa	10以上	15	JIS K 7161-1
引張破壊 呼びひずみ	%	300以上	600	JIS K 7161-1
硬 さ	HDD	40以上	50	JIS K 7215
ビカット 軟化温度	℃	85以上	90	JIS K 7206
吸水率	%	0.04以下	0.04以下	JIS K 7209
耐塩素水性	—	水泡発生が ないこと	水泡発生 なし	JWWA K 144

■ 接着力（ピール強度）

内面被膜の接着力は、下表に示す試験結果のとおり良好です。

呼び径	膜厚 (μm)	試験結果	JWWA K 132
15A	530	78N/10mm幅で被膜破断	30N/10mm幅 以上
50A	650	90N/10mm幅で被膜破断	
80A	800	108N/10mm幅で被膜破断	

試験方法：
長さ100mmの供給管を採取して半割りし、管軸方向に平行に、10mm幅で内面素地まで被膜に切れ目を入れ、被膜の片端を起こし、180°方向に引張ります。

■ 水質基準

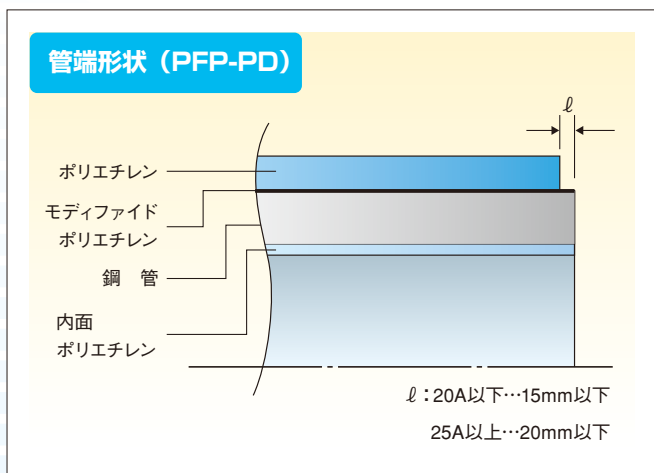
内面ポリエチレン銅管の浸出試験はJWWA K 132に規定されており、下表の通りです。

項目	基準
鉄及びその化合物	水道施設の技術的基準を定める 省令の“別表第二”による。
有機物[全有機炭素(TOC)の量]	
味	
臭気	
色度	
濁度	
残留塩素の減量	mg/L 0.7以下

3 外面（ポリエチレン被膜）

■ 管端被覆形状

PFP-PDの管端はプレーンエンドとし、管端未被覆部はℓの範囲とします。



第2009-K-095-1号
2009年(平成21年) 8月21日

J F E スチール株式会社 東日本製鉄所 様

J N L A 登録試験番号(登録番号)060216JP
社団法人日本水道協会(品質保証センター)川口試験所
埼玉県川口市川口4-3-39

浸出試験結果

ご依頼のありました試験の結果は次のとおりです。

依頼者	J F E スチール株式会社 東日本製鉄所			
製造工場及び 防食加工工場	J F E スチール株式会社 東日本製鉄所 ガルパテックス株式会社			
試験 材料 防食材 形状 口径	JWWA K 132 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 SGP+ ポリエチレン 三菱化学製 特許イタP-AP M53SGP(7"R-) パイプ SGP-PB(18A)			
試験採取年月日	平成21年 7月23日	試験採取検査員	三浦 信光	
受付年月日 分析年月日	平成21年 7月31日 平成21年 8月 3日～ 8月17日 平成21年 8月18日～ 8月19日	浸出試験方法 浸出試験分析方法	JWWA Z 108:2004 に拠る JWWA Z 110:2004 に拠る	
試験実施機関	社団法人日本水道協会 品質保証センター川口試験所		試験責任者	川口試験所長 青木 三徳
浸出液の水質	pH値7.0 硬度43.6 mg/L アルカリ度35.4 mg/L 残留塩素1.0 mg/L			
項 目	試験結果(単位:mg/L)	基準(単位:mg/L)	注	分析方法
鉄及びその化合物	0.004 未満	0.03 以下		フタ-シト-電子分光光度法
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	0.03 未満	0.5 以下		全有機炭素計測定法
味	異常なし	異常でないこと		官能法
臭気	異常なし	異常でないこと		官能法
色度	0.5 度未満	0.5 度以下		透過光測定法
濁度	0.1 度未満	0.2 度以下		積分形式光電光度法
残留塩素の減量	0.1 未満	0.7 以下		DPO吸光度法
備考				

この試験結果は、完全な複製を除き、試験結果の一部分のみを複製した場合は、無効とする。

▲試験証明書

■ 外面用ポリエチレンの物性

PFP-PDの外面被覆に使用するポリエチレンは、高密度ポリエチレンで、硬さ・耐傷性・耐食性・耐薬品性・耐ストレスクラッキング性に優れ、きわめて安定した品質をもっています。

▼基本物性

項目	単位	JWWA K 132準拠	試験結果	試験方法
密度	kg/m³	915以上	937以上	JIS K 7112
引張破壊応力	MPa	11.8以上	20.0以上	JIS K 7161-1
引張破壊伸びひずみ	%	300以上	500以上	JIS K 7161-1
硬さ	HDD	40以上	60	JIS K 7215
ピカット軟化温度	℃	85以上	120	JIS K 7206
耐環境応力き裂	h	96以上	100以上	JIS K 6922-2
耐衝撃性	—	ピンホールが 発生してはならない	ピンホールの 発生なし	JIS G 3469
吸水率	%	0.04以下	0.01以下	JIS K 7209
耐電圧	kV/mm	30以上	30以上	JIS K 7140-1

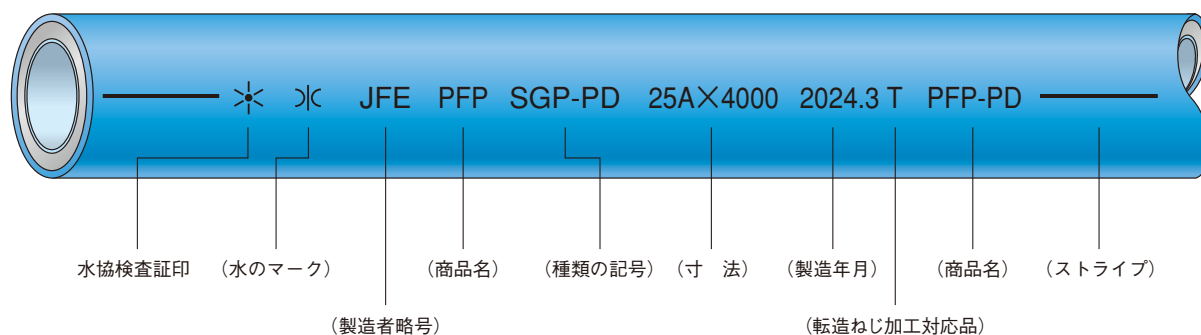
▼耐薬品性

薬品名	結果
無機酸	非常に耐える
アルカリ	非常に耐える
海水	非常に耐える
鉱油	耐える

PFPの表示・PFPの荷姿

■ 表示例

管1本ごとに以下の表示を行います。



■ 荷 姿

(単位：本)

種 類 呼び径	PFP-PA, PB	PFP-PD
15A	100	100
20A	80	75
25A	60	55
32A	40	40
40A	40	35
50A	30	25
65A	18	18
80A	15	15
100A	10	10

- PFP-PA,PBは亜鉛めっきスチールフープにて結束します。
- PFP-PDはプラスチック製フープにて結束します。



使用上の注意

- 給湯用には使用できません。40℃以下でご使用ください。
- 給水用以外にご使用の場合は、あらかじめご相談ください。

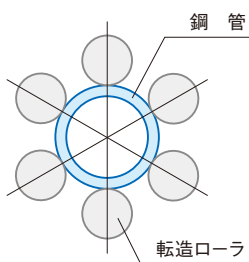
PFPへの転造ねじ適用

〈高耐震性給水配管システム〉

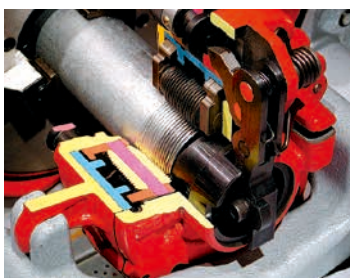
1 転造ねじとは

従来の切削ねじと異なり、切削せず塑性加工によりねじ山を形成するねじ加工法です。

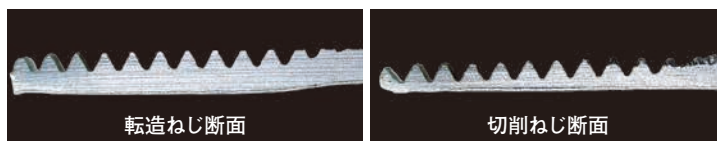
切削ねじと比較しねじ部管厚が厚くなり、メタルフローが切断されません。



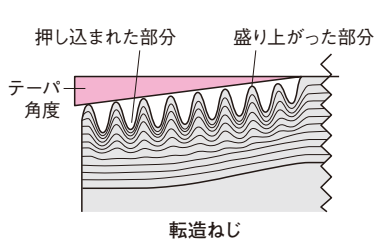
■ 転造ねじ加工時の断面



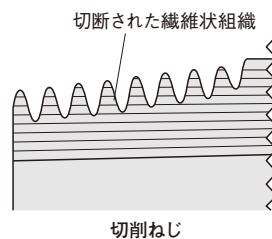
■ ねじ部断面の比較



【転造ねじ加工】



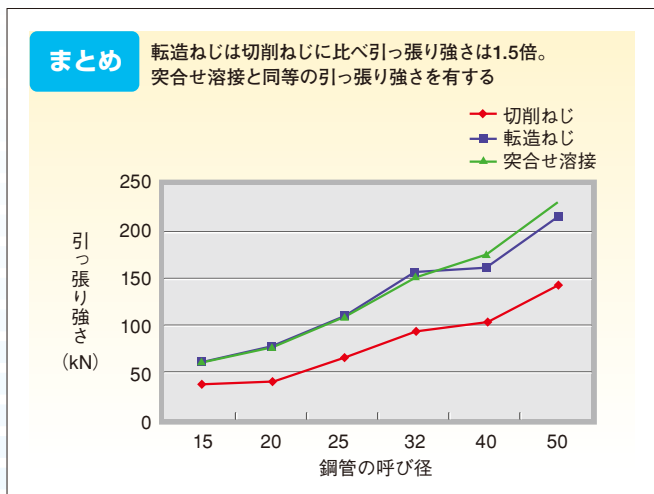
【切削ねじ加工】



2 転造ねじの特長

転造ねじ部の強度は切削ねじの約1.5倍。

突合せ溶接継手並みの強度となり、耐震性に優れます。



■ ねじ部で破断



■ 母管の方が破断



引っ張り試験後の状態

※図・写真はレックス工業(株) 技術資料より許可を得て転載

その他

耐食性 (余ねじ部のめっきが残る)

環境性 (切削屑の発生少、切削油の使用量減少)

経済性 (ローラー寿命はチェザーの10倍)

など多くのメリットがあります。



PFP-PB 模擬配管の暴露試験結果
(暴露場所：沖縄県浦添市／暴露期間：約1年)

3 転造ねじ適用可能な鋼管

- ・給水配管では、ポリエチレン粉体ライニング鋼管のみ適用可能です。
- ・ガス用配管向け外面被覆鋼管にも適用可能（外面被覆はライニングブレードで予め剥離します）

■ 転造ねじ適用可能品種 (15A～65A)

（適用管種 / サイズ等詳細はお問い合わせ下さい。）

用 途	適用管種	備 考
給水配管	ポリエチレン粉体ライニング鋼管 PA、PB、PD	塩ビライニング鋼管は適用不可 （ねじ加工により若干縮径＝管端防食継手と嵌合しない） 転造ねじ加工対応品を表す「T」の管体表示を確認ください
ガス用配管	SGP（黒、白） 外面被覆鋼管	ライニングブレードで 外面被覆を予め剥がしてから転造
その他 空調用配管、消火配管、 蒸気、油圧、エアなど		STPGは熱間仕上の継目無鋼管、 電気抵抗溶接鋼管を使用

★転造ねじ+鋼管の組合せにより、耐震性に優れた配管の構築が可能です。

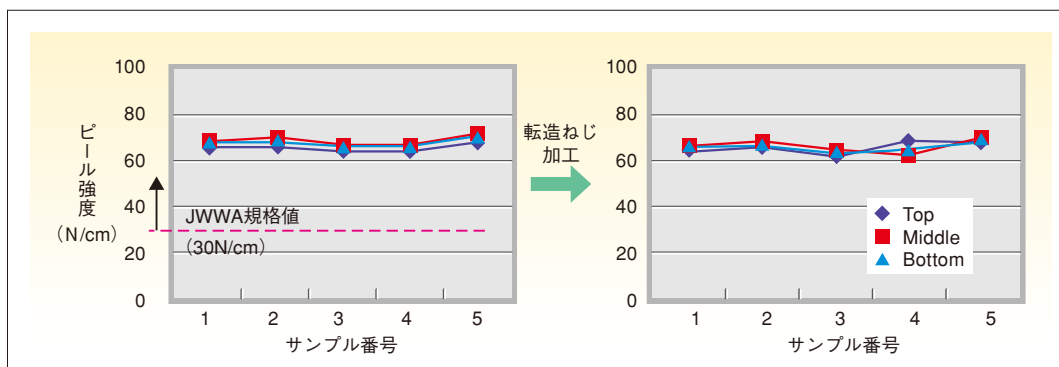
4 PFPの特長

転造ねじ加工を行なっても密着力の低下は殆ど無く、JWWA規格値をクリアしています。

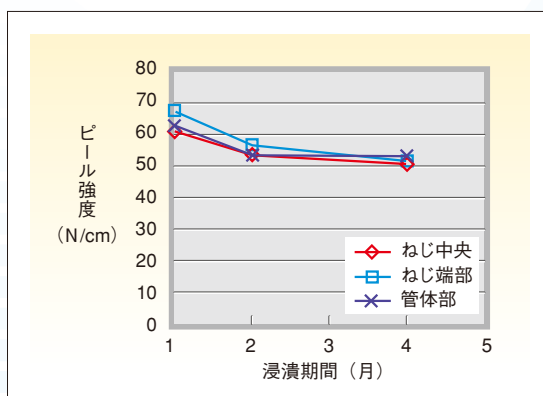
また、転造ねじ加工部の耐久性は非加工部と同等です。

なお、使用する管端防食継手は、PFP（転造ねじ、切削ねじ）と塩ビライニング鋼管とは共通です。

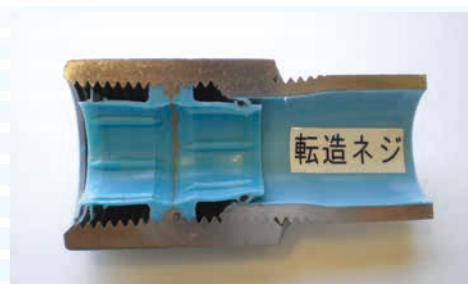
転造ねじ加工後の密着力を含め、JWWA規格のすべての項目について合格しています。



転造ねじ加工前後のねじ部密着力の比較例
（PFP-PB 40A 他サイズも同様。試験方法：180°ピール試験）



転造ねじ加工部の耐久性（二次密着力比較例）
（PFP-PB 50A 試験方法：50℃、3%塩水浸漬後の
転造ねじ部と管体部(ねじ加工なし)の密着力比較）



弊社製PFPの転造ねじ加工・継手嵌合後断面

PFPの切断

■PFPの切断



被覆銅管用カッター

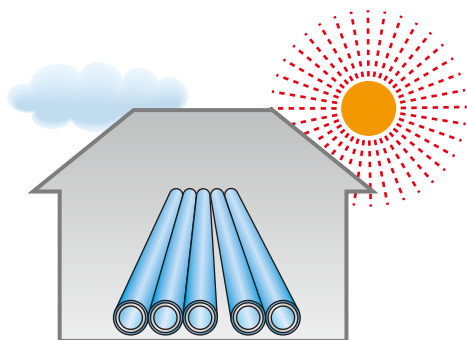
切断方法	管への適否	切断時の注意事項
自動金鋸盤 (バンドソー)	○	内面にバリやかえりが出る場合がありますので、面取り 工具、またはヤスリなどで除去してください。
ねじ切り機搭載 自動丸鋸機	○	
旋 盤	○	
チップソーカッター	×	切り粉が付着しますので使用しないで下さい。
パイプカッター	×	パイプカッターで押し切った場合、かえりが出て内面被 膜を傷つけますので、使用しないでください。
高速砥石	×	局部加熱を生じますので、使用しないでください。
ガス切断	×	内面被膜が燃え出しますので、絶対に行わないで下さ い。



取扱上の注意事項

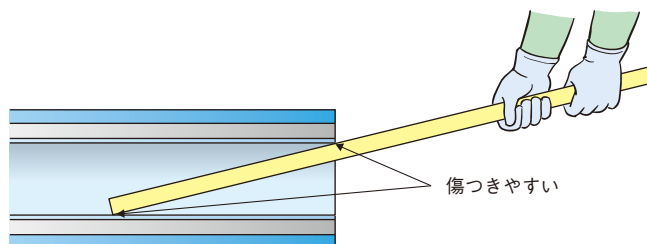
■保 管

屋内保管を原則としますが、やむをえず屋外保管をする場合
は覆いをしてください。



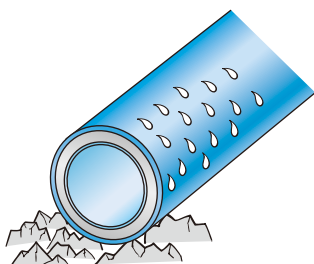
■運搬作業

PFP-PDは運搬車への積上げ、積みおろし作業、起重機・
フォークリフトでの運搬作業等では、被覆に直接鋭利な部
分が接触しないように注意してください。吊上げにはワイ
ヤーロープの使用は避け、ナイロンスリング等をご使用く
ださい。



■配管作業

配管作業時には、とくに夏期
強い直射日光を管に当てて
被覆が軟らかくなることを避
けてください。また、鋭利な
石・砂利等により被覆に損
傷を与えないよう配慮してく
ださい。



■解 氷

電気解氷器、蒸気解氷器あるいはお湯
で解氷してください。トーチランプによ
る直火は用いないでください。

PFPの配管施工例

PFPの配管施工においては、従来の切削ねじに加え転造ねじの加工も可能です。

■切削ねじ加工

ねじ切り機には上水用の水溶性切削油を使用し管内に流入した切削油は水洗いや、ウエス等で充分除去してください。



■継手の接続

被覆鋼管用のパイプレンチおよびバイスを使用することにより、外面被覆を損傷せずに接続できます。接続に際し、管のねじ部および切断面にシール剤をハケで均一に塗布します。

その際、たれるほど塗り過ぎないようにしてください。なお、防食剤は水質に悪影響を与えない上水用のものを使用してください。パイプレンチ跡はごく浅く、問題にはなりません。



■転造ねじ加工

PFPは、既存のねじ加工機に、転造ヘッドを取り付けることで、耐震性に優れた転造ねじ加工も可能です。

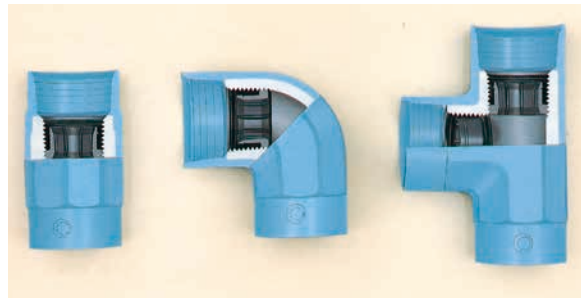
詳しい施工方法は、転造ねじ加工機メーカーにお問合せください。

なお、65A以上の配管に転造ねじを適用する場合、継手との適合性を事前にご確認の上施工ください。

また、PFP-PDに転造ねじを加工する場合は、あらかじめ転造ねじ機に付属したライニングブレードで被覆を除去した後、転造ねじ加工を行ない、コーキング材を使用して、CDコア継手と被覆の間の隙間を埋めてご使用ください。

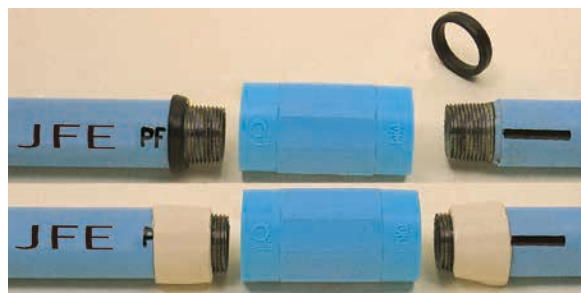
■管端防食継手

PFPの継手には、水質悪化に伴う赤水発生対策用として管端コアを内蔵したコア継手（Cコア継手、CDコア継手：日本継手（株）製）が用意されています。また外面のポリエチレン被覆は、配管施工を容易にするため、特殊形状のスリーブが設けられており、ゴム輪の使用により外部からの水の浸入を防止する構造となっています。なお、PFPの継手は転造ねじ用、切削ねじ用共通で、また塩ビライニング鋼管（JLP）とも共用出来ます。



■PFP-PD配管システム

PFP-PDの配管システムとして、CDコア継手とともにゴム輪、またはコーキング材を使用することで、テープ巻きを行うことなく完全な防食配管が完成できます。いずれの場合も、ねじ部にはシール剤を塗布してください。



JFE スチール 株式会社
<https://www.jfe-steel.co.jp>

本 社	〒100-0011 東京都千代田区千代田2丁目2番3号(日比谷国際ビル)	TEL 03(3597)3111	FAX 03(3597)4860
大 阪 支 社	〒530-8353 大阪市北区堂島1丁目6番20号(堂島アバンザ10F)	TEL 06(6342)0707	FAX 06(6342)0706
名 古 屋 支 社	〒450-6427 名古屋市中村区名駅三丁目28番12号(大名古屋ビルヂング27F)	TEL 052(561)8612	FAX 052(561)3374
北 海 道 支 社	〒060-0002 札幌市中央区北二条西4丁目1番地(札幌三井JPビルディング14F)	TEL 011(251)2551	FAX 011(251)7130
東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1番25号(JRE東二番丁スクエア3F)	TEL 022(221)1691	FAX 022(221)1695
新 潟 支 社	〒950-0087 新潟市中央区東大通1丁目2番23号(北陸ビル5F)	TEL 025(241)9111	FAX 025(241)7443
北 陸 支 社	〒930-0004 富山市桜橋通り3番1号(富山電気ビル3F)	TEL 076(441)2056	FAX 076(441)2058
中 国 支 社	〒730-0036 広島市中区袋町4番21号(広島富国生命ビル7F)	TEL 082(245)9700	FAX 082(245)9611
四 国 支 社	〒760-0019 高松市サンポート2番1号(高松シンボルタワー23F)	TEL 087(822)5100	FAX 087(822)5105
九 州 支 社	〒812-0025 福岡市博多区店屋町1番35号(博多三井ビルディング2号館7F)	TEL 092(263)1651	FAX 092(263)1656
千 葉 営 業 所	〒260-0028 千葉市中央区新町3番地13(日本生命千葉駅前ビル5F)	TEL 043(238)8001	FAX 043(238)8008
神 奈 川 営 業 所	〒231-0013 横浜市中区住吉町2丁目22番(松栄関内ビル6F)	TEL 045(212)9860	FAX 045(212)9873
静 岡 営 業 所	〒422-8061 静岡市駿河区森下町1番35号(静岡MYタワー13F)	TEL 054(288)9910	FAX 054(288)9877
岡 山 営 業 所	〒700-0821 岡山市北区中山下1丁目8番45号(NTTクレド岡山ビル18F)	TEL 086(224)1281	FAX 086(224)1285
沖 縄 営 業 所	〒900-0015 那覇市久茂地3丁目21番1号(國場ビル11F)	TEL 098(868)9295	FAX 098(868)5458

お客様へのご注意とお願い

- 本カタログに記載された特性値等の技術情報は、規格値を除き何ら保証を意味するものではありません。
- 本カタログ記載の製品は、使用目的・使用条件等によっては記載した内容と異なる性能・性質を示すことがあります。
- 本カタログ記載の技術情報を誤って使用したこと等により発生した損害につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

Copyright © JFE Steel Corporation. All Rights Reserved.
無断複製・転載・WEBサイトへの掲載などはおやめください。

JFE Steel Corporation
<https://www.jfe-steel.co.jp/en/>
HEAD OFFICE

Hibiya Kokusai Building, 2-3 Uchisaiwaicho 2-chome, Chiyodaku, Tokyo 100-0011, Japan Phone: (81)3-3597-3111 Fax: (81)3-3597-4860

■ ASIA PACIFIC
SEOUL

JFE Steel Korea Corporation
16th Floor, 41, Cheonggyecheon-ro, Jongno-gu, Seoul,
03188, Korea
(Youngpung Building, Seorin-dong)
Phone: (82)2-399-6337 Fax: (82)2-399-6347

SHANGHAI

JFE Consulting (Shanghai) Co., Ltd.
Room 801, Building A, Far East International Plaza,
319 Xianxia Road, Shanghai 200051, P.R.China
Phone: (86)21-6235-1345 Fax: (86)21-6235-1346

BEIJING

JFE Consulting (Shanghai) Co., Ltd. Beijing Branch
821 Beijing Fortune Building No.5 Dongsanhuan
North Road, Chaoyang District, Beijing, 100004,
P.R.China
Phone: (86)10-6590-9051

GUANGZHOU

JFE Consulting (Guangzhou) Co., Ltd.
Room 3901 Citic Plaza, 233 Tian He North Road,
Guangzhou, 510613, P.R.China
Phone: (86)20-3891-2467 Fax: (86)20-3891-2469

MANILA

JFE Steel Corporation, Manila Office
23rd Floor 6788 Ayala Avenue, Oledan Square,
Makati City, Metro Manila, Philippines
Phone: (63)2-8886-7432 Fax: (63)2-8886-7315

HO CHI MINH CITY

JFE Steel Vietnam Co., Ltd.
Unit 1704, 17th Floor, MPlaza, 39 Le Duan Street,
Dist 1, HCMC, Vietnam
Phone: (84)28-3825-8576 Fax: (84)28-3825-8562

HANOI

JFE Steel Vietnam Co., Ltd., Hanoi Branch
Unit 2314, 23rd Floor-West, Lotte Center Hanoi, 54 Lieu
Giai Street, Cong Vi Ward, Ba Dinh District, Hanoi, Vietnam
Phone: (84)24-3855-2266 Fax: (84)24-3533-1166

BANGKOK

JFE Steel (Thailand) Ltd.
22nd Floor, Abdulrahim Place 990, Rama IV Road,
Silom, Bangkok, Bangkok 10500, Thailand
Phone: (66)2-636-1886 Fax: (66)2-636-1891

YANGON

JFE Steel (Thailand) Ltd., Yangon Office
Unit 05-01, Union Business Center, Nat Mauk Road,
Bocho Quarter, Bahan Tsp, Yangon, 11201, Myanmar
Phone: (95)1-860-3352

SINGAPORE

JFE Steel Asia Pte. Ltd.
16 Raffles Quay, No.15-03, Hong Leong Building,
048581, Singapore
Phone: (65)6220-1174 Fax: (65)6224-8357

JAKARTA

PT. JFE STEEL INDONESIA
6th Floor Summitas II, JL Jendral Sudirman Kav.
61-62, Jakarta 12190, Indonesia
Phone: (62)21-522-6405 Fax: (62)21-522-6408

NEW DELHI

JFE Steel India Private Limited
806, 8th Floor, Tower-B, Unitech Signature Towers,
South City-I, NH-8, Gurgaon-122001, Haryana, India
Phone: (91)124-426-4981 Fax: (91)124-426-4982

MUMBAI

JFE Steel India Private Limited, Mumbai Office
603-604, A Wing, 215 Atrium Building, Andheri-Kurla
Road, Andheri (East), Mumbai-400093, Maharashtra,
India
Phone: (91)22-3076-2760 Fax: (91)22-3076-2764

BRISBANE

JFE Steel Australia Resources Pty Ltd.
Level28, 12 Creek Street, Brisbane QLD 4000
Australia
Phone: (61)7-3229-3855 Fax: (61)7-3229-4377

■ MIDDLE EAST
DUBAI

JFE Steel Corporation, Dubai Office
P.O.Box 261791 LOB19-1208, Jebel Ali Free Zone
Dubai, U.A.E.
Phone: (971)4-884-1833 Fax: (971)4-884-1472

■ NORTH, CENTRAL and SOUTH AMERICA
HOUSTON

JFE Steel America, Inc.
750 Town & Country Blvd., Suite 705, Houston,
TX 77024, U.S.A.
Phone: (1)713-532-0052 Fax: (1)713-532-0062

MEXICO CITY

JFE Steel de Mexico S.A. de C.V.
Ruben Dario #281-1002, Col. Bosque de
Chapultepec, C.P. 11580, CDMX. D.F. Mexico
Phone: (52)55-5985-0097

RIO DE JANEIRO

JFE Steel do Brasil LTDA
Praia de Botafogo, 228 Setor B, Salas 508 & 509,
Botafogo, CEP 22250-040, Rio de Janeiro-RJ, Brazil
Phone: (55)21-2553-1132 Fax: (55)21-2553-3430

Notice

While every effort has been made to ensure the accuracy of the information contained within this publication, the use of the information is at the reader's risk and no warranty is implied or expressed by JFE Steel Corporation with respect to the use of information contained herein. The information in this publication is subject to change or modification without notice. Please contact the JFE Steel office for the latest information.

Copyright © JFE Steel Corporation. All Rights Reserved.

Any reproduction, modification, translation, distribution, transmission, uploading of the contents of the document, in whole or in part, is strictly prohibited.